## 令和4年度武豊町議会定例会9月議会賛成討論原稿

2022年9月21日 みらい 櫻井雅美

議長のお許しをいただきましたので、会派みらいを代表して、認定第1号 令和3年度武豊町 一般会計歳入歳出決算認定について、賛成の立場で討論を行います。

令和3年度一般会計歳入総額は182億5,384万5,702円、歳出総額は171億2,683万6,468円となり、歳入歳出差引額は11億2,700万9,234円の黒字、また、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は10億7,640万6,680円となり、千円未満の端数を除き、財政調整基金へ積立てをしました。

歳入については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和 2 年度に比べ、国庫補助金が30億418万6,000円と前年度比52.8%減となったため、総額は減少しました。

町税は、収入額は 80 億 4,515 万 5,000 円で、4割と前年度と比べほぼ横ばいとなっています。収納率は 98.4%と高い徴収率となっていますが、今後とも公平を期すため、不納欠損、収入未済額のさらなる削減をし、より調定額に近づけるよう一層の努力を期待します。

歳出については、総務費では令和4年度の策定に向けた「知多武豊駅西グランドデザイン」の 検討開始、登下校での利用が多い交差点に防犯カメラの設置、自転車用ヘルメット着用促進に 向けた補助、RPA ソフトを利用した業務の効率化を行いました。

民生費では、子育て世帯への臨時特別給付金として所得制限で国の給付金がうけられなかった世帯に対して町独自で 10 万円の支給、妊産婦医療費助成、令和 5 年の実施に向け重層的支援体制整備事業の移行準備、東大高保育園建て替えのための新築工事基本設計など子育て支援体制の充実が図られました。

衛生費では、新型コロナウイルス感染症関連としてワクチン接種事業、ほかに、妊娠期の支援として2年目となる妊娠8か月サポートコール事業、健康たけとよスマイレージの継続、令和4年4月からの知多南部広域環境センター供用開始に伴う大足区の大気環境を測定するための大気測定局設置、いちはら資源回収エコステーションが新設された。

商工費では、新型コロナウイルス感染症対策応援事業として、1 世帯当たり 3000 円分の 飲食応援クーポン券を配布しました。 土木費では、武豊中央公園に大型テントシェルターが設置され、多くの町民が利用できる公園としての整備、知多武豊駅東土地区画整理事業では無電柱化実施するための予備設計を行った。

消防費では、消防団の火災出勤報償金を 1200 円から 2000 円に単価改正。また災害時における放送伝達に関して知多半島ケーブルネットワーク株式会社と、物資調達について榊原段ボール株式会社と協定を締結した。

教育費では、ゼロカーボンシティの取り組みとして、給食配送車に走行時に CO2 を含む排出 ガスを一切出さない e キャンターが納車されました。自治体への e キャンターの納車は全国で も本町が第 1 号でした。また、学校においてICT機器の効果的活用のためにICT支援員の配置。学校施設営繕工事では武豊小学校でプール解体工事後、駐車場として整備を行いました。 屋内温水プールは予算を追加して飲食販売スペース、多目的室の整備を行いさらに充実した 施設となりました。また、第 3 次生涯学習基本構想では令和 4 年から 10 年間の基本計画を 策定した。また、町民会館では「はやぶさ2」関連事業の開催、公民館、図書館、スポーツ施設に おいても感染症対策を行いながらできる限りの事業を行いました。

総括として、指定管理、補助金制度の執行においては、提出された計画書並びに実績報告書を十分に精査、確認することで、目的の達成に向けて、さらなる経済的な執行に努めていただきたい。

また、本町においては住民登録人口が自然・社会減となり全体として 200 名近い人口減となった。人口減少によって、地域からサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを入手することが困難になるなど、日々の生活が不便にならないよう、社会情勢を鑑みた柔軟な行政執行に努めていただきたい。

最後に、令和 3 年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策により、緊急性のある事業の執行並びに各種イベントの中止、延期などに様々な臨機応変な対応が求められる中、各事業の遂行に当たっては、職員一丸となって携わっていただいたことに心から感謝と敬意を表します。

以上、町民の要望に応えるため、各事業に対して丁寧で細やかな執行がされていることから、 会派みらいとしては本決算認定については認定することに至りましたので、各議員におかれま しても認定賜りますようお願いいたします。

これをもって、認定第1号 令和3年度武豊町一般会計歳入歳出決算認定についての賛成討

論とします。